

令和 6 年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

音戸中学校区 校番 27 学校名 呉市立音戸小学校

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(1年間)経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>***</p> <p>(知)</p> <p>「前より賢くなった！友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成</p> <p>確かな学力</p>	<p>①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める。</p> <p>②表現力を育成する</p> <p>③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>④自他のよさを認め合い、自尊心、自己有用感を向上させる。</p> <p>⑤地域の人・ものことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。</p>	<p>○単元末テストは、全体の平均点は81点だった。低中高でみると低86点、中75点、高81点で、低・高学年は目標を達成できたが、中学年は5点達成できなかった。どの学年も基礎・基本の力を伸ばすことが求められる。</p> <p>○課題発見・解決学習に関わる学習意識調査の肯定的評価は88%だった。ノートを手段として、予想したり自分で考えたりする等授業の型を決めて全体で取り組んだことが効果的であった。</p> <p>○児童アンケート「以前と比べて自分のスピーチの言葉が増えたと思う」の肯定的評価は86%、「以前と比べて人前で話すときに自信がもてるようになったと思う」の肯定的評価は88%である。家庭学習と関連させながらスピーチ指導を行うことができた。</p> <p>○個に応じた課題別学習意識調査では、教職員は100%、児童は86%だった。タブレット学習(キュビナ)の活用は使用中止のためできなかったが、自主学習を全学年で取り組むことができた。</p> <p>○特別支援の視点の周知が不十分であったことが課題である。</p>	<p>○つまずきのある児童には、放課後等に少人数指導を実施し、達成感をもたせる。</p> <p>○授業の始めに基礎基本タイム(国語:漢字、算数:算数用語や定義)を取り入れる。</p> <p>○継続して研究授業を行い、児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりについて教職員全員で考え実践していく。</p> <p>○教科書に示されている「言葉の力」を全学年掲示をすることで、教員・児童共に意識できるようにする。</p> <p>○「言葉の力」の内容を目指すことで、話す内容の質を上げる。</p> <p>○ドリルタイムに、「コグトレ(認知機能トレーニング)」を取り入れる。</p> <p>○特別支援の視点として、授業(国語・算数)始めの時間の取組を設定しルーティン化することで「時間の構造化」を行う。ペアで確認をすることで「学習形態の工夫」につなげる。</p>
<p>**</p> <p>(徳)</p> <p>「友達好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成</p> <p>豊かな心</p>	<p>⑥基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>⑦児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。</p> <p>⑧児童の防災意識を高める。</p>	<p>④挨拶に関しては、意識調査で、児童は94%と数値的には達成できていたが、保護者は76%だった。実際の生活を見てみると、自分から挨拶ができていないという課題がある。</p> <p>○クラスで話し合いを行っていく活動をより充実させる必要がある。</p> <p>○児童の意識調査で「友達のいいところを見つけることができた」児童の数値が91%と高い。「親切さんありがとう」BOXを活用し、頑張っている児童の姿を放送で伝えたことは、友達のよさを見つけようとする児童が姿が増えることにつながったと考える。</p> <p>○音戸の自慢できることを言える児童の割合は、87%だった。音戸町のよさを実感できるような授業の工夫を更に行っていく必要がある。</p>	<p>○挨拶名人キャンペーンを実施し、できている児童を教職員全員で認めていく。</p> <p>○クラスをよりよくするために、自分たちでできることを考え、実行する機会を増やしていく。話し合いの中で、いろいろな考えに触れ、前向きに取り組んで行こうという意欲をもてるようにしていく。</p> <p>○「親切さんありがとう」の活動で、引き続き給食放送の時間を使って児童を紹介していく。</p> <p>○地域を実際に見る、地域の方のお話を聞く機会を作るなどの授業を継続するとともに、教材研究を通じて、教師自身も地域のことを知り、音戸のよさを実感できるように努めていく。</p>	<p>○学期に1回以上の情報モラル学習を継続して行っていく。11月の地域公開参観日に警察署の方に情報モラルの講演をしていただき、学校と保護者が連携しながら情報の扱い方を指導していく。</p> <p>○2学期もキャンペーン期間を設け、シャトルスローレーを全学年で取り組む。他の種目についても引き続き各学年で取り組んでいく。</p> <p>○2学期も引き続き、地域と共に防災教育を進めていく。他教科とも関連させながら、防災や安全に関して、行動の仕方や災害等についてより理解が深まる指導を行い、各学年のファイルに資料等を保存していく。</p>
<p>*</p> <p>(体)</p> <p>「運動好き・給食好き・早起き音戸っ子」の育成</p> <p>健やかな心身</p>	<p>⑨児童と向き合う時間の確保</p> <p>⑩長時間労働の縮減</p>	<p>○67%の教職員が肯定的な回答をし、達成値は84%であり、昨年度の値と横ばいである。</p> <p>効果的であった取組は「月・木曜日以外の放課後及び学校行事後は学級事務の時間を確保する」「成績処理期間に「早日課」を取り入れる」「『すいすい水曜日』と掲示し、計画的に業務を進める習慣づくりを進め、リフレッシュデーとする」ことであった。</p> <p>課題として、昨年度より導入された新しい校務支援システムへの対応は以前よりはスムーズに使用できているが、依然として不慣れなため慎重に操作することが多く、その分時間がかかっている。また、業務が主任等に集中することもあり、児童に向き合う時間が確保できていないと実感している教職員が一定数存在している。</p>	<p>○平日のメディアのきまり1時間以内を守ることができていた児童の割合は、86%だった。げんきっず週間中はきまりを守る児童が多いが、メディアの上手な使い方が十分できていないので、情報モラルの学習に全学年取り組んでいく必要がある。</p> <p>○くれチャレンジマッチスタジアムに取り組んだ。1学期のダッシュリレーの結果は、前年度の記録を10%上回ることはできていないが、全ての学年が3位以内に入賞できた。また記録を掲示することで意欲的に挑戦できた。</p> <p>○1学期は全学年、火災と土砂災害の指導を実施できた。1年生の参観日ではひろしまマイタイムラインの作成を保護者と一緒に行ったり、他学年でも情報をアップデートし、保護者に避難場所や音戸で起こりやすい災害等を確認してもらうことができた。</p>	<p>○全教職員で意識して「児童と向き合う時間」を確保する。</p> <p>・効果的であった取組を継続する。</p> <p>・打ち合わせ会、企画委員会は時間を決めて進める。</p> <p>・アンケートなど授業外でのICT活用を増やし、時間短縮を意識する。</p> <p>・分掌部会で業務を振り分ける等、主任等に業務が集中しないようにする。</p> <p>・生活や総合の計画など地域学習は長期休業中などを使って早めに計画し見直しをもって進める。</p> <p>・学校全体で、行事を精選・簡略化する意識をもち、保護者、地域にも理解を求める。</p>
<p>業務改善</p>				